

あなたに寄り添い、今日も動く！



# よいたまみ通信

第5号  
2020年 早春号

発行：依田 眞美子松原市議会議員  
〒580-0044 松原市田井城 2-2-2-402  
TEL&FAX：072-334-2281



ごあいさつ

令和初の新年は、お天気にも恵まれ、お健やかに過ごされた事とお慶び申し上げます。本年も、感謝の心を忘れず、潔く議員活動に取り組んでまいります。皆さまにとってより良き一年となりますようお祈り申し上げます。

この度、よいまみ通信第5号を作成いたしました。昨年の12月定例会にて、個人質問をしました内容をまとめました。これからも教育を基調に子育て、健康、暮らし、高齢者施策など、皆さまの声を聴かせて頂き市政に届けてまいります。頑張ります！どうかどうか宜しくお願い致します。

## 令和元年11月5日 令和2年度予算要望提出!!

新天皇即位にともなう新たな時代を迎え、令和初めての予算編成となる令和2年度の予算。今年、オリンピック開催と、経済分野において活性化が期待されます。インバウンド消費が本市に好影響をもたらすよう商工会議所をはじめとする他機関との連携を密にし、仕掛けづくりをする必要があります。



また、近年、日本を襲う激甚災害の頻発化により予備費の活用を余儀なくされ、財政的支出を生んでいます。基礎自治体として、自然災害対応についての対策も重要であります。そして、社会保障費の増大は、必然であります。新たなまちづくりと共に堅実な財政運営と固有財産の利活用、民間活力導入、新たな財源確保等に努めて頂き、市民に喜ばれる松原づくりに努めて頂く事を切望し要望書(58項目)を提出しました。



## おじいちゃん、おばあちゃんの振り込め詐欺対策に!

悪質な勧誘電話を自動録音  
通話録音装置を**無料**で貸し出します!

着信時に犯罪行為を抑止する音声  
が流れ、通話を自動録音する装置  
です。警告音声と自動通話録音に  
よる被害防止が期待できます。



装置設置後のアンケート調査に回答できる人  
①高齢者単身世帯②高齢夫婦のみの世帯  
③日中高齢者のみとなる世帯

着信前にアナウンスを流し、振り込め詐欺を抑止!



それでも電話がかかってきた場合、すべての会話を録音します!



※数に限りがあります。

詳しくは…  
産業振興課  
☎337-3112

## よいまみの活・動・報・告



近鉄自動車学校付近  
踏切内歩道設置



阿保6丁目付近 歩道草伐採



高見の里駅 エレベーター設置事業  
(12月完成予定)



令和2年新春街頭演説会(松原駅前)



## 1 学校における「くすり教育」等の充実・強化について

**問** 各小・中学校に子どもたちの健康を守る為に、学校医や学校薬剤師の方々がおられると聞いているが、学校薬剤師は学校ではどのような役割を担っていただいているのか。



**答** 具体的には、年度当初から、飲料水の水質、保健室の薬品検査、プールの水質検査、理科室の薬品の調査など。加えて「薬物乱用防止教室」などの出前授業の講師等。

**問** 大阪市・大阪市薬剤師会では、「くすり教育」の充実・強化について述べられているが、本市における「くすり教室」についてはいかがか。

**答** 中学校の保健分野の授業において、医薬品の正しく決められた使用回数や、使用時間、使用量などにより、医薬品の作用を最大限働かせることができる等、加えて、医薬品だけに頼らず、栄養、休養、睡眠により自然治癒力が十分発揮されることについても指導している。

**問** 小学校では、どのような指導が行われているのか。

## 2 学童保育について



**問** H27年度より高学年の受け入れが始まったが、希望者は全員入室できているのか。また、低学年と高学年の割合は。

**答** 希望された児童は、全員入室できている。児童数は、低学年8・高学年2の割合となっている。

**問** 留守家庭児童会室では、遊びをとおしての安全保護及び生活指導とあるが、具体的にどのようなことなのか。

**答** 子ども自身が成長発達していく中で、特に遊びは、大切な活動である。役割やルールを守りながら、遊びを共有し、おもしろさ、楽しさなどを共感することで、社会性の育ちにつながるため、指導員は、子ども達の様子を把握しながら、安心・安全に配慮し指導援助している。

**問** 指導員の配置基準と配置人数は。また、支援学級在籍の児童へ配慮ある支援はできているか。

**答** 40人までが1つの支援の単位となり、支援の単位ごとに、2人の支援員を配置。H31年4月は、50人の支援員を配置している。支援学

## 3 骨髄バンクドナー登録について



**問** 本市において、職員が、骨髄バンクドナーとして、登録や提供に伴う検査及び入院を要するとなった場合、休暇の制度はあるのか。

**答** ドナー登録や骨髄液を提供する場合において、検査や入院が必要とされる期間を特別休暇として認めている。

## 4 多胎妊娠、多胎児支援について



**問** 本市で多胎出産は、年間に何件くらいあるものなのか。

**答** H26年度からH30年度まで順に、14件・11件・8件・8件・6件。今年度は、9月までで、10件あり、平均では、約10件程度。

**問** 多胎妊婦さんの必要な方には、今年度から開始された産後ケア事業の利用もされていると聞かすが、どのような状況か。

**答** 産後ケアの登録件数は、R1年11月末現在で、11件。そのうち多胎児の方の登録は2件。育児疲れなどによる、身体的・精神的負担は大きく、母親の休養や授乳の相談など、助産師が支援を行い、多胎育児への不安や負担の軽減を図っている。

**問** 他に多胎育児されている方に、どのような支援があるのか。

**答** 子育て支援センターを利用されている双子を子育てしている母親の提案があり、「そらまめちゃんの会」(ひとつのさやに小さな兄弟が寄り添っているイメージ)と名付け発足し、H26年度より子育て支援センターの取り組みとして開始している。

**問** そらまめちゃんの会について、内容や効果などは。

**答** 各小学校でも毎年実施している「薬物乱用防止教室」の機会を中心に、医薬品について紹介している学校もある。また、令和2年度から使用する小学校保健体育の教科書に、「喫煙・飲酒」の防止について学習する中に、発展的な学習内容として「医薬品の正しい使い方」が示されている。

**問** 今後の取り組みについてのお考えは。

**答** 学校医や学校薬剤師をはじめとする関係団体との連携を一層密にし、出前授業等積極的に取り組んでいく。日常の授業でも学校薬剤師等の専門家をゲストティーチャーとして招き、指導内容の充実を図る。

**要望** 今、10代の若者の間で、咳止め等市販薬を多量服薬することで気分を盛り上げる「違法薬物の代用品」のように使う手法が広がりつつある。体に危害を及ぼす恐れのある「危険ドラッグ」の規制が強化され、市販薬乱用が続けば内臓に悪影響を起こす。このような青少年を作らないために、各小学校において、教員の先生方にも知識を深めて頂けるよう、学校薬剤師より「くすり教育」を指導頂きたい。

級在籍の児童には、加配の支援員がつき手厚い支援をしている。

**問** 指導員は資格がいるのか。資格が必要ならば、何名の方が有資格者なのか。

**答** 有資格者としている。放課後児童支援員認定資格を有する、保育士・社会福祉士・教員免許など。松原市は、全員有資格者となっている。

**問** 指導員の資質向上にむけ、研修などあるのか。

**答** 少なくとも年3回は、全指導員を対象に研修を行っている。内容については、救命救急講習や指導員の意見も聞きながら、今年度は、高学年の子ども達の理解と関わりについてとりあげた。

**問** 今後、利用される家庭の増加も想定されるが、確保できるのか。

**答** 入室希望の増加に関しては、今後も学校と連携しながら、確保していく。

**要望** 昨年9月に「新・放課後子ども総合プラン」が、厚労省と文科省共同で策定された。これからの、留守家庭児童会室の取り組みについて大きな転換期にさしかかっているように思う。女性の社会進出で共働き家庭が増えることで、利用ニーズも増加していく。ならば、小学校に通う児童全員が放課後安心・安全に過ごせる居場所づくりの方向へ前向きに考えて頂きたい。

**問** その特別休暇があるという周知などは、庁内で行っているのか。

**答** 制度の趣旨をふまえ、周知を考えていきたい。

**要望** 本日の定例会を大きな周知の場ととらえて頂き、この特別休暇を利用し、松原から一人でも若い職員の方々が、人の生命に役立てるドナー登録に協力頂けるようお願いしたい。

**答** 子育て支援センターキラキラにおいて、年間3回～4回開催。交流会や多胎児で楽しめるような遊びなど、テーマについては、希望を聞き実施。参加者は、各回4組から7組程度で、多胎児を一度に一緒に連れての外出の大変さなど悩みや喜びが共有できるようになった。今年は、多胎妊婦さんも初めて参加され、交流が広がりをみせている。

**問** 多胎妊娠への妊婦健康診査について、受診回数が多くなる分を追加し、助成を行っている他市の市町村の状況は。

**答** 大阪府下では11市。5回追加している市が9市、2回追加している市が2市。

**問** 本市においても、多胎妊婦さんのために、妊婦検診の助成の追加があれば、安心して検診が受けられると思うが、いかがか。

**答** 多胎妊婦の方とその家族の方の、身体的・精神的・経済的な負担感や不安感を少しでも軽減し、安心して出産して頂き、健やかな育児に繋がられるよう、多胎妊婦の方の妊婦健診助成については、回数を追加する方向で前向きに考えていく。

**要望** これから妊娠される方にとっては、嬉しいこと。後、今後、多胎児を育てる家庭の中で、産後ケア事業やファミサポなどの支援を必要とするにもかかわらず、窓口に行かず、制度を利用できない実態がない様、アウトリーチ(訪問型)によるサポートで支援できる柔軟な運用を考えて頂きたい。